

まほらいな市民大学の様子

令和5年10月6日（金）

まほらいな市民大学

第26期生・大学院9期生入学式

入学記念講演『自然と人間の社会をとらえなおす』

講師 哲学者・作家

内山 節（うちやま たかし）氏



伊那市の生涯学習の場である「まほらいな市民大学」の第26期生（33名）ならびに大学院第9期生（4名）の入学式がニシザワいなッセホールで行われました。

学長である白鳥 孝 伊那市長から、「お互いに健康に留意され、市民大学で学ぶ楽しさを感じながら、より一層学習を深めていただきたい。」と歓迎のあいさつがありました。第26期生を代表して宮下恵子さんが「講座で心豊かに学び、仲間との出会いと絆を大切に、楽しく充実した日々にしていきたい。」と決意を語りました。また、大学院9期生代表の小松澄子さんは、「歴史・自然科学の2コースで、自主的に調査・研究を進めていきたい。」と語りました。



入学式に続いて記念講演があり、哲学者・作家の内山 節（うちやまたかし）氏から『自然と人間の社会をとらえなおす』と題して講演がありました。

東京と群馬県上野村との2拠点居住を50年以上続けられている内山氏は、上野村の山の神信仰や水神信仰の話や、自然と生者と死者と神仏の社会は人々の生活の中でつくられた関係づくりの上に成り立ったものであるという話をされました。また、自然は恵をあたえてくれるとともに、時に災害を引き起こすという話があり、伊那では三峰川のおかげで美味しいお米が収穫出来る一方で、三峰川は災害が多く、『霞堤』があり『不動明王』の石仏が置かれていることを想起できました。

折り合いを『居り合い』ととらえ、自然と人間の「居り合い」をどうつけていくか、神仏の世界も考えながら、内山氏の熱い語りがとても印象に残りました。また、明治以降の日本が失ったものの話では、日本人が古来から自然とともに生活してきた尊い考え方を持っていたことに気づくことが出来ました。